

# こんにちは！ 名寄市長 加藤剛士です Vol.3

このコーナーは、Airてっし(エフエムなよろ)との共同企画で、市長がテーマを設定し、Airてっしパーソナリティーと対談した内容を本紙掲載ならびにAirてっしで放送いたします。今月のパーソナリティーはAirてっし局長の太田敏一さんです。対談では「Airてっし」と表示させていただきます。



## 感動を呼んだ日本青年会議所北海道 地区会員大会留萌大会に参加して

**Airてっし** まず、青年会議所とはどのような団体か、また沿革についてお聞かせください。

**市長** 青年会議所(JC)は「明るく豊かな社会」の実現を同じ理想とし、次代の担い手たる責任感をもった20歳から40歳までの指導者たらんとする青年の団体です。北海道で50、日本では730を超える地域に36,000名ほどの会員を有しています。

日本にJCの火が灯ったのは、今から60年ほど前(昭和26年)の東京。戦後の荒廃の中、我々若者の手で何とか日本を復興させなければと、20~30歳代の青年実業家約50名が立ち上がりました。自分たちの会社もままならない中で、自らを犠牲にしてでも国家、地域のためにと、団結し行動しはじめた先輩たち。「公の中の個」「世のため人のために生きる」そんな確固たる志を思うとき、胸が熱くなるのを感じます。

名寄青年会議所はその3年後、昭和29年に設立されました。日本でもかなり設立が早い方で、初代理事長は故中山正泰氏です(元商工会議所会頭・北昭産業社長)。ちなみに私は平成20年と21年の2年間理事長をさせていただきました。現在でも設立当時の熱い思いは後輩たちに引き継がれ、近年では、名寄青年会議所の運動が名寄市立大学の開学(短大から4年制化)やなよろ市立天文台の新設に大きな役割を果たしてきました。

**Airてっし** 9月に留萌で開催された北海道地区会員大会に参加されたご感想は？

**市長** 今年の9月10日~12日まで、日本青年会議所北海道地区会員大会が道北では10年ぶりに留萌の地で行われました。例年、参加者が1,500名規模の大会となるため、これまで大都市での開催が多かったのですが、人口2万5千人、メンバー25名しかいない留萌青年会議所が早くから手を挙げて誘致に成功。2年間かけて準備してきました。その根底に流れるのは、留萌市を何とか「元気にしたい」というメンバー25名一人ひとりの思いです。

現役会員としては最後の年である私は、12日の「式典」と「卒業式」に参加すべく、11日の夜から留萌市にお邪魔しました。公務があって到着は午後8時を過ぎ、野外での懇親会会場の撤収作業が始まっていましたが、そこで

見たものは…何と、高橋留萌市長自ら撤収のお手伝いをしているではありませんか！沢山の地元ボランティアスタッフの皆さん、そして留萌市役所の職員も50名以上がお手伝いに来ていたようです。次の日の式典会場。当然1,500人が入る「箱」などありません。そこで、何と昔の合板工場の跡地に仮設ステージと音響を設置し、パイプいすをかき集めての会場設営。かっこよかった！感動しました！

**Airてっし** この大会で、まちづくりの原点を実感されたということになりますね。

**市長** この大会の誘致による経済効果は大きいでしょうが、そのことで留萌地区の経済が飛躍的に良くなるはずもありません。しかし「このまちを何とかしよう」という青年たちの志は、市民に確実に伝わり、まちがいなくこの瞬間、一つになりました。まちづくりは、最後は人づくり。人がいかに活性化するかにつきると思います。人が活性化すれば自ずとすばらしいアイデアが生まれてきます。まちづくりの原点を拝見させていただいた今回の留萌大会。これからの留萌はちょっと注目です。

市民一人ひとりが、地域に関心を持ち、町内会を始めとする地域活動に積極的に参加すること、自分の持つ知識や能力を市民活動やボランティアなどの社会貢献活動に生かすことは、これからの地域社会を支える力となります。その支える力が、まちや人を輝かせ、名寄市の未来を創り出すものと信じています。是非、皆さんも身近な活動から気軽に始めてみませんか。

**Airてっし** 地域を支える原動力となるのは、一人ひとりの活動の結集によるものといえますね。

※この企画のAirてっしでの放送時間は、毎月1日と10日の午前と午後の予定。土・日・祝日のときは、その翌日の放送となります。



「名寄市からのお知らせ」を放送中  
市からのお知らせやイベント情報などを紹介しています。

放送=毎週月~金曜日 ① 8:10から ② 12:30から ③ 17:10から